

9 令和 5 年度主要事業実施状況

主要事業計画	実施状況及び成果、今後の課題等
(1) 資料・情報 (ア) 長野県唯一の県立図書館の責務として、信州に関する地域資料を網羅的に「収集」し、次世代に確実に継承する「保存」と、資料を最大限活かす「利用」を戦略的にバランスよく行うため、県内外の関係機関との役割分担を行いつつ、蔵書構築のあり方を見直す。 (イ) 利用者自身が課題を見つけ、調べ、解決する力を身に付けることを促す調査・相談（レファレンス）を実施する。 (ウ) 情報アクセス環境の地域間格差是正のため、相互貸借送料支援および全県向けインターネット貸出を実施し、普及させる。   【蔵書整理休館期間中に行った書庫内の配置見直し】	(ア) 令和4年8月から開始した、県立長野図書館単独の電子書籍閲覧サービス「市町村と県による協働電子図書館」（デジとしよ信州）について、資料を更新し引き続きサービスを提供した。 地域資料収集の取組みとして、古書の流通情報を調査し、所蔵のない地域資料（郷土資料）や複本の確保に努めた。 (イ) 令和 5 年度の調査相談件数は以下のとおり。引き続き調べ方を伝える丁寧な調査・相談に努めたい。 【実績】 令和5年度 5,540件（R6.1月末） 令和4年度 5,394件 (ウ) 令和5年度の相互貸借の状況は、以下のとおり。利用者が求める情報を得ることができるよう、相互貸借だけにこだわらず柔軟に対応できるよう努めたい。 【実績】 令和5年度 貸出冊数3,124冊 借受冊数323冊（R6.1月末） 令和4年度 貸出冊数3,759冊 借受冊数375冊

主要事業計画	実施状況及び成果、今後の課題等
(2) 空間の整備と、それに伴う活動の推進 (ア) 「共知・共創」をコンセプトとする「信州・学び創造ラボ」において、県民の主体的活動と学びのコミュニティづくりを促し、これからの公共空間や新たな学びのモデル構築を図る。 (イ) 試行錯誤ができる「学びのツール」として、「モノコトベース」をさらに活用し、コミュニティや関係機関とも協働しながら、新たな学びの仕組みを拡げていく。 (ウ) 実空間と情報空間を融合させ、ICT を利活用したコミュニケーションの場を企画・提供する。 【ラボ・デザイン会議#13】 【ラボカフェ】 【#19 まるキャン交流会】【#20 モノコトベースの機器の将来を考える会】【#22 旅する本箱旅支度の会】 【こどものモール】	(ア) (イ) (ウ) 「信州・学び創造ラボ」の活用やコミュニティ促進を目的としたワークショップとして、以下のイベントを実施した。参加しやすさに配慮し、リアル×オンラインのハイブリッド開催を標準化した。 実施したイベント（R6.3月末まで） 《ラボ・デザイン会議》 #13 テーマ：生成AIと図書館であそんでみる？ 《ラボカフェ》 #18 幸せを考える本棚づくりの会vol.2 #19 まるキャン交流会 #20 モノコトベースの機器の将来を考える会 #21 旅する本箱のテーマを考える会 #22 旅する本箱 #2 旅支度の会 《モノコトベース》 オープンデー（12回） オリジナルライブラリーカードワークショップ（36回） 《こどものモール》 長野市による、チケット制の子どもの体験プログラム。3階ラボを会場として、多くの子ども＆保護者が来館し、体験プログラムを楽しんだ。公共の場（図書館）での開催にあたっては、チケットを持たない人も参加できるよう工夫した。 参加人数は約200人（子ども80人）（チケット：57人、現金：23人）

主要事業計画

(工) 図書館を「新しい出会いと発見が促される場」と捉え、1 階児童図書室、2 階一般図書室における「新しい発見・学び」のプログラムを展開する。



【2階・一般図書室展示】



【1階・児童図書室展示】



【学齢期の体験・発見のための模型・カードゲーム等】



実施状況及び成果、今後の課題等

(工) 社会科の授業の一環としての小学生の見学で、社会における図書館の役割や提供する資料の変化について、学びの流れを聞き取りそれに沿った案内を学齢に応じて行った。



【小学生による図書館見学】

- ・児童図書室には、体験型の学びができるマイクロスコープ、観察材料を常設し、子どもたちが館内を巡って謎を解くスタイルの分散型プログラムを実施した。室内展示は、入口からの動線を意識しながら多様な問いかけ型の棚を構成し、利用者の探究心を引き出すための仕掛けを施している。
- ・令和5年度は対象年齢を拡大し、学齢期の子どもたちの教科に踏み込んだ模型も備え、動画の視聴のみでリアルには見られなかった実験模型等を実際に触れられるようにした。社会科見学の際、児童生徒のみならず引率の教職員に対しても児童室の機能を示すことができた。
- ・感染症に対する社会の対応を注視しながら、変化する状況に対応する体験の再開、新たなプログラムの検討を始めた。各図書室と信州・学び創造ラボをつないだ展示・プログラムを展開する等、館全体に知の入口が広がる縦断的なタッチポイントの設計に取り組んだ。

主要事業計画

(3) 各県域・分野における県民の学びを支える人材育成支援

(ア) 地域の情報センターとしての役割を果たす人材の育成として、初任・中堅等向けの研修や、共通する課題に取り組み、各館の運営に生かす「これからの公共図書館研究会」を開催する。



【レファレンス実習】



【林業士入門講座】



【ステップアップ研修】

実施状況及び成果、今後の課題等

(ア) 図書館職員の中堅研修に位置づける「これからの公共図書館研究会」について、引き続き 4 部門を設け、県内公共図書館関係者 66 名が会員登録し、**計 9 回**のオンライン研究会を開催した。

現場での課題を持ち寄り、研究・検討し、情報交換を行うフラットな場として定着している。オンライン開催方式により、フレキシブルで地域・立場を問わない積極的な参加が実現している。

- ・サービス計画 11 名 1 回 (R6.1 月現在)
- ・学びのプログラム・学校連携 15 名 4 回 (R6.1 月現在)
- ・デジタル活用 0 回
- ・資料活用・レファレンス 23 名 4 回 (R6.3 月現在)
- ・初任者研修 (レファレンス実習) は、会場館として初めて手をあげていただいた図書館を中心に県内 4 地区で開催した。(伊那市、大町市、東御市、県立長野)
- ・林業総合センターが実施する「林業士入門講座」との連携により、共知共創の場を認識し、地域の中で継続的に利活用していくためのリテラシープログラムは様々な様相を模索する中で、社会人の個別の学びに直結し、人と人とが結びつく方向性を確認した。(平成 29 年～)
- ・長野県図書館協会が実施する第 7 回ステップアップ研修「地域資料や学校資料をデジタルアーカイブ化するために」において、講師を務めた。地域資料や学校資料を参加者が持ち寄り、上向きスキャナでデジタル化し「信州デジタルコモンズ」に登録する体験をした。また、著作権処理などの悩みについて解決にむけた一歩となるよう、話し合う場を設けた。
学校 2 校を含む、9 機関から 13 名が参加。

主要事業計画

(イ) 県民の学びを創発する機会として「図書館フォーラム」等を開催する。



【児童・青少年と共にある本・情報・人の広場—図書館から世界の窓を開こう—】

【ウィキペディアタウン in 大町市】



(ウ) 長野県における知と学びに関わる各種機関が、信州における価値ある地域資源の共有化をはかり、新たな知識化・発信を通して、地域住民の学びを豊かにし、地域創生につなげていくことを目的とした「信州 知の連携フォーラム」を一層推進する。

(エ) 広域単位での公共図書館・学校図書館に対する研修会の開催支援（企画相談、講師派遣・紹介等）や、各地域の会議等への出席を通じて、各地域の活動を後押しする。

実施状況及び成果、今後の課題等

(イ) 「これからの公共図書館フォーラム」の新たな展開として、県内外、図書館界内外に開かれたテーマを計画、実施。会場とオンラインを組み合わせたハイブリッド方式で開催した。

開催実績

第1回 『信州の「はたらく」を考える』Vol.3

第2回 『児童・青少年と共にある本・情報・人の広場—図書館から世界の窓を開こう—』

※R5年度全国公共図書館研究集会（児童・青少年部門）と合同開催

(ウ) 「信州・知の連携フォーラム」第7回を実施（当番：信州大学附属図書館）（テーマ：「記憶<データ>を未来へ～信州からはじまる文理融合のデジタルアーカイブ～」）。イベント後の関係者会議で今後の方向性として、協力体制の継続を確認するとともに、「ミッションステートメント」を発出した。

(エ) 北信、中信、佐久地区の公共図書館連絡会および研修会に出席し、オブザーバー、講師等を務めた。松本市の公共図書館・学校司書合同研修会では講師として、学校連携に関する情報提供を行った。長野県学校図書館協議会北信地区司書学習会で電子図書館の現状と学校図書館活動への展開について情報提供を行った。

・白馬村図書館協議会、及び図書館等複合施設検討委員会にアドバイザーとして、佐久市立図書館建替再整備検討委員会に委員として参加した。

・北アルプス地域振興局による「ウィキペディアタウン in 大町市」を共催し、企画・運営への協力、講師派遣を行った。

主要事業計画	実施状況及び成果、今後の課題等
(4)「長野県 eLibrary 計画」によるデジタル化・ネットワーク化の推進 (ア) 図書館機能の高度化の方策として、目録のデジタル化、手続き・サービスのデジタル化、空間や場のネットワーク化、コンテンツの電子化を強化し、これらを使いこなす学びのネットワーク化を推進する。 (イ) 自ら学び、調べるためのコンテンツとして、レファレンスで多用する資料を優先的に電子化し、「信州ナレッジスクエア」のコンテンツを拡充するとともに、長野県で生産される知的生産物を収集・保存・発信できる仕組みを提供する。  【信州ナレッジスクエア／ eReading Books】 (ウ) 災害時でも学びが継続できる手段を確保し、図書館利用の地域的・身体的なバリアフリー化を実現するために、ICT による付加価値のある学びのコンテンツとして、「電子書籍サービス」を導入する。  【市町村と県による協働電子図書館「デジとしょ信州」】  【県立長野図書館電子書籍サービス】	(ア) 令和3年度に外部委託によりデジタル化を実施した当館資料108点について著作権調査を実施。保護期間の満了が確認できた96点を公開した。令和5年度はデジタル田園都市国家構想交付金を活用し、大正期から昭和戦前期までの郷土資料300点のデジタル化を行った。同様に著作権保護調査を行っている。今後のデジタル化についても、優先順位をつけて取り組んでいく。 ・商用データベースの提供について、利用状況に合わせて見直しを行った。引き続き、利用促進が課題である。 (イ) 「信州デジタルコモンズ」に、PDF資料として、図書館問題研究会長野県支部の学習会の記録『齊藤俊江さんに聞く「我が青春の図書館」』を登録した。PDF資料が掲載できるようになり、市町村の行政文書等の掲載など活用の可能性が広がった。引き続き参加団体の増加に努める。現在2機関から登録の申請がり、業者に設定を依頼中である。 (ウ) 市町村と県による協働電子図書館「デジとしょ信州」及び「県立長野図書館電子書籍サービス」を昨年度から継続して提供した。 ・「デジとしょ信州」運営状況（R6.2月末時点） 【利用登録者数】17,991名（全ての市町村に利用登録者がいる） 【蔵書数】計27,927冊(R6.2月末時点) うち、購入(有償) コンテンツ 計16,683冊(R6.2月末時点) ※宝くじ助成1800万円を活用 【貸出数】125,365冊（一日平均約375冊の貸出がある） 最多貸出年代：40代(19%)、次いで50代(18%)、10代(17%) ※全国知事会「先進政策バンク」 先進政策大賞 （一社）プラチナ構想ネットワーク 第11回プラチナ大賞「優秀賞」

主要事業計画	実施状況及び成果、今後の課題等
	・「県立長野図書館電子書籍サービス」運営状況（令和6年度1月末時点実績） 【蔵書数】1,225冊 【閲覧数】2,336回（1冊あたり閲覧平均 1.9回）

「長野県 eLibrary 計画」概念図

